（独立行政法人教員研修センター委嘱事業）

教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
（平成１９年度　教育課題研修）

報　告　書

プログラム名	児童・生徒の国語力を高め、メディア活用能力を育成する指導力向上のための教員研修プログラム
プログラムの特徴	問題解決型学習過程における児童・生徒の国語力及びメディア活用能力の育成を図り、教員の指導力向上を目指す研修プログラムを開発し、その成果をDVD、冊子にまとめ、県内小中学校教員の研修に活用する。

平成２０年３月

別府大学　　大分県教育委員会

Ⅰ　開発の目的・方法・組織

１．開発の目的

別府大学司書課程では、大分県教育委員会、大分県学校図書館協議会の後援により平成 16 年 8 月以来、教員（とくに司書教諭）、学校司書、司書、図書館ボランティアに呼びかけて「子どもの読書活動推進研修会」を開催してきた。その中で以下のような現状と課題が明らかになった。

① 学校図書館を読書センター、学習情報センターにするために人の配置、メディアなどの充実を図らなければならない。

② 児童・生徒が進んで読書をし、読書習慣を身につけ、読書力をつけるための読書環境を整備しなければならない。

③ 児童・生徒に真の情報活用能力を身につけるための指導を段階的・系統的に行わなければならない。そのための教員の指導力向上を図らなければならない。

④ 子どもの読書活動推進に関わる学校、図書館、家庭、地域、ボランティアなどの連携を強めなければならない。

⑤ 教員、学校司書、図書館司書、読書ボランティアなどへのパワーアップ、スキルアップのための研修が図られなければならない。

⑥ 「大分県子ども読書推進計画」Ⅱ３【学校の取組の現状と課題】及びⅢ２【あらゆる機会・場所における読書機会の提供】の具現化が未だ図られていない。

以上の中から③と⑤を中心に本開発プログラムに取り組むことにした。

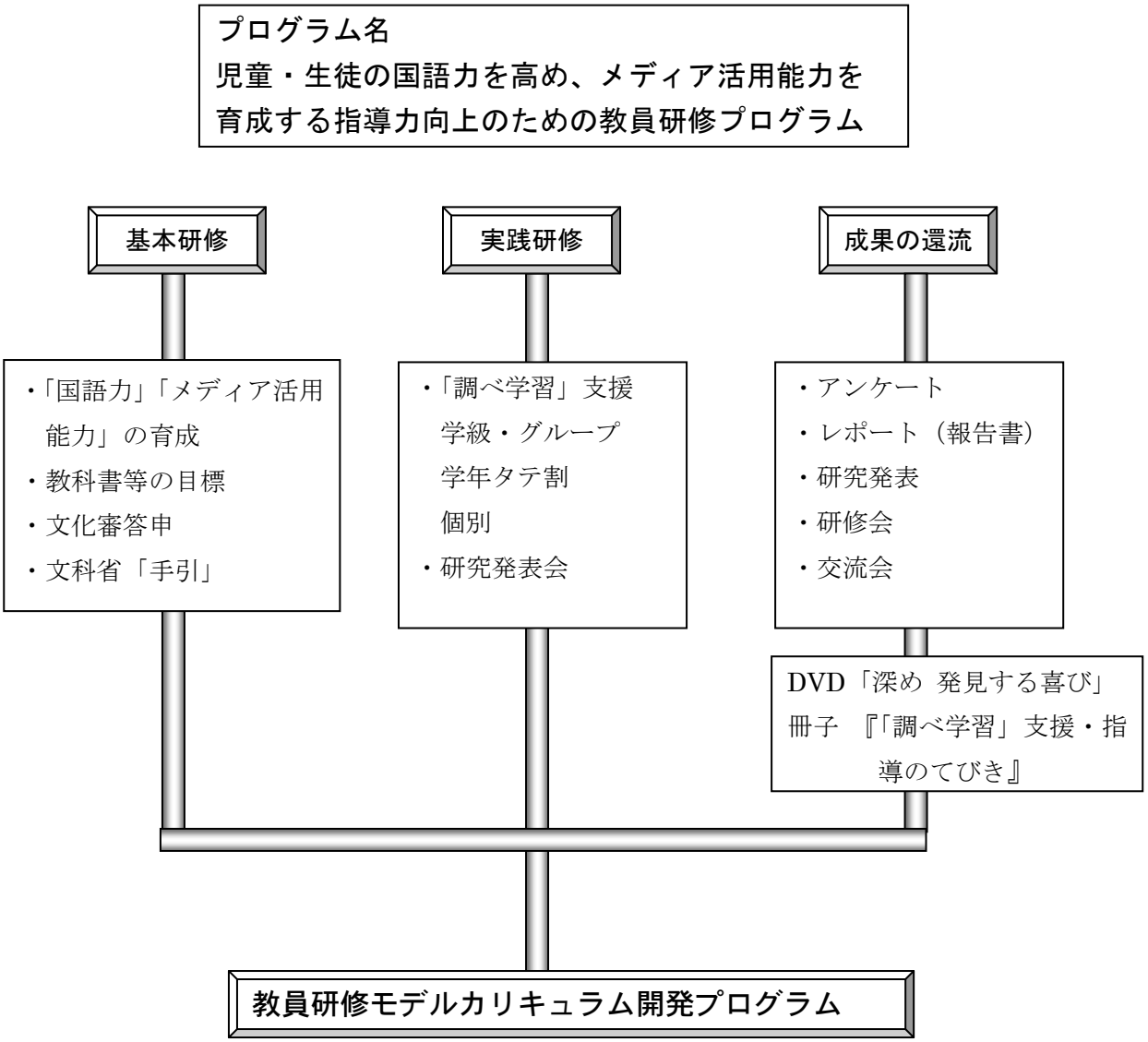
さらに、学習指導要領総則第 4-2 総合的な学習の時間のねらいである「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること」、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」を具体的なものにするための教員の指導力向上と、『これからの時代に求められる「国語力」』（文化審議会答申）、『情報教育の実践と学校の情報化』（文部科学省）の答申や提言の主旨を教育現場で活かし、児童・生徒の国語力育成、メディア活用能力向上のために役立て、指導力向上を図ることを目的にして本開発プログラムに取り組むことにした。

２．開発の方法

開発推進委員会で本開発プログラムの全体構想と進め方について協議し、次のように確認した上で取り組みを始めることにした。

（１）本プログラムの主題について検討し、キーワードを抽出・確認のうえ意思統一を図った。

【本開発プログラムの主題と基本的な取り組み】



問題解決型学習過程における国語力及びメディア活用能力の育成を図り、教員の指導力向上を目指す研修プログラムを開発し、その成果をＤＶＤ、冊子にまとめ、県内小中学校教員の研修に活用する。

キーワード：問題解決型学習　国語力　メディア活用能力　　教員の指導力向上
ＤＶＤ　冊子

問題解決型学習：全教科、領域、総合的な学習で自ら見付けた課題を探求課題として情報を収集し、整理記録し、まとめ、発表する一連の学習を指す。「調べ（る）学習」と呼ぶことが多い。

国語力、メディア活用能力：国語力は文化審議会の『これからの時代に求められる国語力』、メディア活用能力は『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」～』（文部科学省 平成１４年６月）により概念規定した。

教員の指導力向上：大分県立大分豊府中学校、杵築市立北部中学校、学校法人別府大学明星小学校の学級・グループ及び中津市立北部小学校等から応募した児童・生徒を指導・支援することを通して研修する。

ＤＶＤ、冊子：新年度早々には大分県内各小中学校、関係諸機関・団体等に配布し、研修に活用する。

（２）研修内容

研修は、講演、講義、見学、実習支援、セッションで構成する。

①講演	講師・栗原勝氏、種村エイ子氏に読書力、国語力について学ぶ。
②講義	講師・成田國英氏に「調べ学習」について学ぶ。 講師・甲斐徳人氏に国語力の育成について学ぶ。
③見学	別府大学アーカイブズセンター、別府大学附属博物館、大分県立図書館、同先哲資料館を見学、説明・質疑により学ぶ。
④実習支援	「調べ学習」をする児童・生徒を研修者が分担して、支援・指導し、指導力の向上を目指す。
⑤セッション	実習支援の実際を参観後、講師・鴇田道雄氏から児童・生徒へのアドバイスを聞き、続いて研修者は「調べ学習」の進め方の理論や指導法等について学び、指導力向上を図る。

【実習支援について】

児童･生徒がさまざまなメディアを活用して、意欲的･主体的に問題を解決する資質や能力を育成するために､次の諸点を中心に実習支援をし、指導力向上を目指す。

①児童･生徒が自ら課題を見付け、課題を決め、多様な方法で情報を集め、課題を解決しようとする意欲や見通す力を大切にする。

②必要なさまざまな情報を探すことができる。

③別府大学の施設設備、情報機器等を活用することができ、最もふさわしい方法で探した情報を記録し、整理することができる。

④調べたことをまとめ、いろいろな方法でより効果的に発表することができる。

⑤以上のことを通して国語力・コミュニケーション力、メディア活用能力の向上を図る。

⑥実習期間後も「調べ学習」を続けるようアドバイスする。

（３）まとめと還流

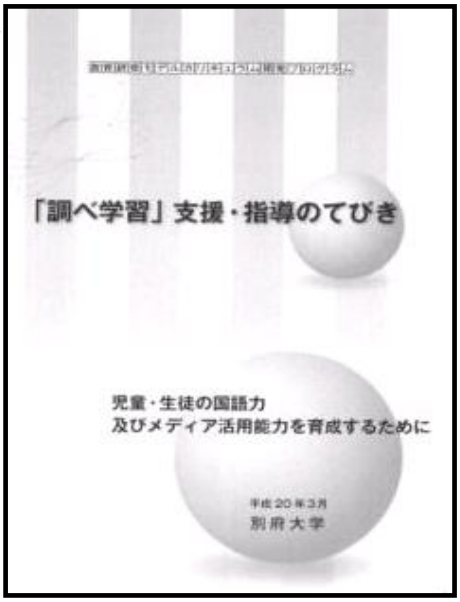
児童･生徒の主体的な学習過程を実習支援することを通して教員の指導力向上を図るためにDVD『深め　発見する喜び－教員の指導力を拓く調べ学習－』及び冊子『「調べ学習」支援・指導のてびき－児童・生徒の国語力及びメディア活用能力

を育てるためにー』を作成し、大分県下の小中学校その他類縁機関や諸団体に配布して、研修に供する。研修者のレポートやアンケート調査等により成果や課題を検証する。

ＤＶＤ「深め 発見する喜び」

ＤＶＤは、児童・生徒と教員の調べ学習の取り組みを映像で記録・分析し、各段階における具体的な支援方法を明らかにした「調べ学習」教材として開発したものである。内容は、小学校１校・中学校２校、合わせて５つのグループの調べ学習の発表、鴇田道雄氏（千葉県袖ヶ浦市立根形小学校教頭）の指導、調べ学習Ｑ＆Ａを通して、国語力を高め、メディア活用能力を育成する指導に役立てられるようにした。

制作にあたり開発プログラム推進委員会は、一般論ではなく個別の実践の中から問題点をつかみ、どう支援するのかを明確にするために、発表を中間と最終の２回に行った。中間発表は８月に参加者合同で、最終発表は１１月から１月にかけて各校別に行い、それぞれ取り組みの経過を点検し再構築を試みている。教材では、それぞれのグループの中間と最終の発表を紹介し、どのように課題を深めたのかを比較できるようにした。



冊子『「調べ学習」支援・指導のてびき』

冊子『「調べ学習」支援・指導のてびき』は鴇田道雄氏の提言「メディアを活用していかにして児童・生徒の学習意欲を育てるか」を中心にまとめ、DVD 視聴後、さらに研修に役立てられるように編集した。また、「国語力の育成と向上について」「インターネットを使う調べ学習について」及び朝の読書の課題についても紹介した。

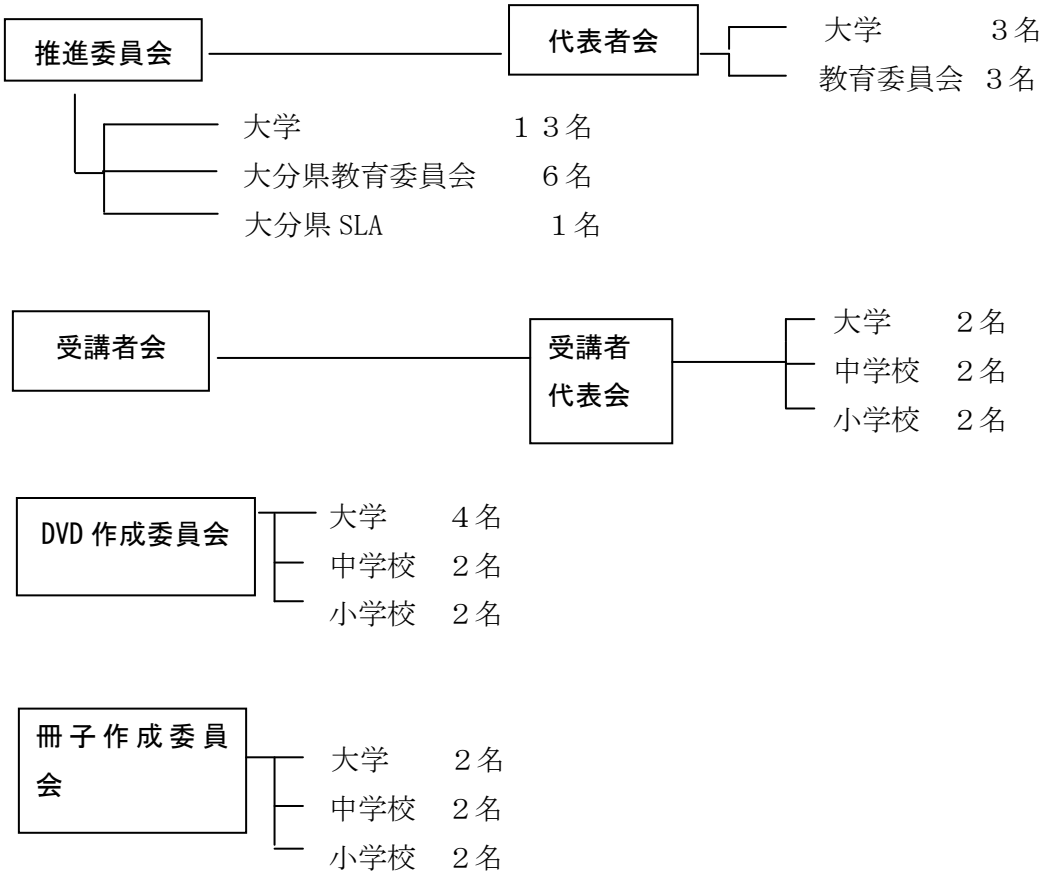
別府大学メディア教育･研究センターを児童･生徒､教職員はもとより広く地域に開放し、大学挙げてメディア活用能力向上に努める。

３．開発組織

開発プログラム推進委員

氏　　名	所属機関　職名等	役割分担
佐藤允昭	別府大学教授	全体の総括（代表）
山本勇一	大分県教育庁義務教育課管理監	全体の総括（副代表）
佐藤雅彦	大分県教育庁義務教育課指導主事兼主幹	国語力向上のための指導
甲斐徳人	大分県教育庁義務教育課指導主事	国語力向上のための指導
伊藤裕治	中学校司書教諭（大分県学校図書館協議会事務局長）	学校図書館を活用した「調べ学習」
高橋一成	大分県教育庁生涯学習課生涯学習推進班主任社会教育主事	生涯学習の立場からのプログラム検討
増本貴光	大分県教育庁生涯学習課主査	公共図書館を活用した「調べ学習」
梅田潤子	大分県立図書館主任司書	公共図書館を利用した「調べ学習」
衛藤賢史	別府大学教授	ＤＶＤ制作
石井保廣	別府大学教授	インターネットを活用した「調べ学習」
段上達雄	別府大学教授	博物館を活用した「調べ学習」
針谷武志	別府大学准教授	アーカイブズセンターを活用した「調べ学習」
高橋敦文	別府大学短期大学部教授・明星小学校校長	学習情報センターとしての学校図書館
小沼俊男	別府大学短期大学部教授	ＤＶＤ制作
呰上勝哉	別府大学非常勤講師	インターネットを活用した「調べ学習」
得松昭行	別府大学非常勤講師	学習情報センターとしての学校図書館・報告書作成
後藤弘子	別府大学非常勤講師	国語力向上のための指導・報告書作成
室谷征一郎	別府大学メディア教育・研究センター職員	インターネットを活用した「調べ学習」
佐藤サチ	別府大学附属図書館司書	図書館を活用した「調べ学習」
川野洋子	別府大学附属図書館職員	インターネットを活用した「調べ学習」・会計

開発プログラム推進委員会 ほか



Ⅱ　開発の実際とその成果

１．研修の背景、ねらい

研修の背景

本開発プログラム名を「児童･生徒の国語力を高め、メディア活用能力を育成する指導力向上のための教員研修プログラム」として、教員の指導力向上を目指す研修に取り組むようになった背景やねらいとして以下のことがあげられる。

(1)別府大学主催の４回にわたる「子どもの読書活動推進研修会」を通して明らかになった最も切実な課題及びさらに研修を深めていく必要がある課題として、

①学校図書館が貧弱で蔵書、情報機器、視聴覚資料などのメディアが「調べ学習」を進めるのに不十分な学校図書館が多い。

②小規模で司書教諭がいない小中学校、学校司書が全くいない市町村をはじめ「人」のいない学校図書館が多い。
③公共図書館との協力･支援体制ができていないところが多い。
④自らの力で「調べ学習」をするのに時間がかかり過ぎ、時間確保が難しい。
⑤学校図書館を必要とする学習を考えていない教師が少なくない。
⑥「調べ学習」でどのような力がついたかが見えにくいため、学力低下に結びつけてとらえられがちである。

(2)学習指導要領総則の中からのいくつかの課題として
①児童･生徒が自ら課題を見付け、自ら学び自ら考え、問題を解決する「生きる力」を育てること。
②情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表･討論の仕方など「ものの見方･考え方」を身に付け、問題解決に向けて主体的･創造的な態度を育てること。
③自己を見つめ、現在や将来について真剣に考え、生きがいのある生活を実現していくという自己の生き方について考えることができること。
④児童・生徒自らが設定した課題や学習計画、追求の過程を自ら振り返り、評価し、改善を図っていくこと。

・児童･生徒のメディア活用能力の育成
・基礎基本の定着、各教科等の目標達成
・「わかる授業」の実現
・「生きる力」をもった児童･生徒の育成
これらの課題解決、目的達成を目指して指導力の向上を図る。

⑤各教科等の指導に当たっては、児童･生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段および視聴覚教材や教育機器を積極的に活用して学習活動ができるようにすること。

児童･生徒のメディア活用能力の育成はもちろん、インターネットの影響力の強さ、不正なサイトへの正しい対処など、全教育活動において適切な指導が求められる。そのためには、まず教師の情報リテラシーの確立を図るための研修が必要である。

⑥学校図書館が児童･生徒が自ら学ぶ学習･情報センター、読書センターとしての機能を発揮することが求められる。

そのために、司書教諭を中心に学校図書館メディアや情報機器の整備を進め、機能を発揮させ、十分な活用ができるよう学校全体で取り組まなければならない。同時に、自治体の適切な対応や類縁機関による支援体制の確立、地域の支援・協力やボランティアとの協働等が望まれる。

(3)児童・生徒の読書離れ、弱い読解力（PISA：OECD 生徒の学習到達度調査）による、情報リテラシーの問題、学校図書館メディア、ソフトウエア、コンピュータ、情報通信ネットワークなどの整備の遅れ・較差、司書教諭や学校司書の全校配置などの諸問題、職務の確立、スキルアップ研修など「人」の問題などの克服を急がなければならない。

(4)「メディア活用能力」及び「国語力」という用語についてはその呼び方や概念が定まっているとはいえない。本開発プログラムでは、下記の「手引き」と「答申」から一応概念規定して、現行学習指導要領との関連を考慮しながら開発を進めることにした。

＊「メディア活用能力」について

『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引き」～』（文部科学省 平成 14 年 6 月）

●初等中等教育における情報教育の目標：「情報活用能力」の育成

●「情報活用能力」を構成する 3 観点「１情報活用の実践力」「２情報の科学的な理解」「３情報社会に参画する態度」（詳細は略）を基に概念規定した。

＊「国語力」について

「これからの時代に求められる国語力」（文化審議会答申　平成 15 年 2 月）

第二　２　国語力を構成する能力等（1)国語力のとらえ方について

① 考える力、感じる力、想像する力、表す力から成る、言語を中心とした情報を処理・操作する領域で国語力の中核をなす。

②考える力や表す力などを支え、その基盤となる「国語の知識」や「教養・価値観・感性等」の領域で、①の諸能力の基盤となるもの。（詳細は略）

第三　２　「話す力」「聞く力」「書く力」「読む力」の具体的な目標（詳細は略）を基に概念規定した。

なお、「調べ学習」という用語は何かを調べる学習くらいに安易に使っている場合が多いので、今回の「問題解決型学習過程における児童・生徒の国語力及びメディア活用能力の育成を図り、教員の指導力向上を目指す」本開発プログラムでは、問題解決型学習を「調べ学習」ということばで統一して呼ぶことにした。この「調べ

学習」という用語は中村雅胤氏の「調べ学習」論（雑誌「学校図書館」平成１３年９月号）を使わせてもらった。

＊「調べ学習」について

①資料･情報即ち学校図書館メディアを活用することによって課題を解決する学習である。

②児童・生徒が、自ら発見した問題を研究課題として計画を立て、メディアを検索･収集し、その結果得られた情報を統合･分析することによって解決を図る学習である。

③いろいろな教科、総合的な学習･領域で展開される学習である。

④生涯にわたり問題解決し続ける力、即ち「生きる力」を培うための情報活用能力を身につける学習である。

研修のねらい

（１）メディア活用能力の育成を図るためには、学校教育活動全体で取り組まなければならない。そのためには、何よりも全教員がメディアリテラシーを身につけ、多種多様な学校図書館メディア、コンピュータやインターネット等を活用して指導できることが求められる。

（２）メディア活用能力の育成は、体系的になされなければならない。そのために各学年で育成されるべき内容やねらい、各教科等の指導の目標、指導の範囲等を明らかにしていきたい。鴇田道雄氏が本開発プログラムのレジュメ 32～37 ページに紹介している系統表、計画表をはじめ全国学校図書館協議会制定の「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」に学びながら、自校の体系表作成へ進んでいきたい。

袖ヶ浦市教育委員会作成の「学び方ガイド」に学び、自校や学級で活用するパスファインダー作成を手がけたい。

（３）児童・生徒に次のような観点で国語力及びメディア活用能力の育成を図る。そのために教員の指導力向上を目指す。

①メディアの特性をしっかり理解して、多様なメディアを選んで活用することができる。

②メディアを介さないで情報収集することができる。面接・インタビュー、電話、アンケート調査など。

③情報内容を理解し、記録し、まとめ、評価し、活用するなど一連の作業をきちんとすることができる。

④情報収集に当たってメモ、聞き書き、抜き書き、引用など記録の仕方を身につけ

ることができる。

⑤以上のような能力をもとに収集し、まとめられた情報を検討しながら、推論したり、批判したり、新しい疑問を抱いたり、判断したりといった思考過程を経て問題解決に向かうことができる。

⑥結論を文章にまとめる技能を修得し、レポートに編集することができる。

⑦聞き手によく分かるように話し、質問にも分かるように答え、自分の考えたことを一人でも多くの人に理解されるようにプレゼンテーションすることができる。

⑧図表やポスターなどを使って掲示･展示したり、録音、OHP、ビデオテープ、ＤＶＤなど音声や映像を使ったり、紙芝居や劇にしたりして多様な表現をすることができる。

２．研修日時、期間、日程、講師

研修時間　　午前　9：30～12：00　　午後　13：00～15：30

第1回 7月30日	午前	（講義と質疑応答）「調べ学習の意義と学校図書館の役割」 （講師）成田國英（日本体育大学教授・元文部科学省初等中等教育局教科調査官）
	午後	（見学）別府大学附属博物館及びアーカイブズセンター （講義）「博物館、アーカイブズセンターを活用した調べ学習」 （講師）段上達雄（別府大学教授）、針谷武志（別府大学准教授）
第2回 7月31日	午前	（講義）「子どもの学ぶ力を伸ばす朝の読書」 （講師）栗原　勝（全国朝の読書連絡会会長）
	午後	（講義）「子どもたちに学ぶ喜びを伝えよう」 （講師）種村エイ子（鹿児島国際大学短期大学部教授）
第3回 8月2日	午前	（見学）大分県立図書館・先哲史料館 （講義）「図書館を使った調べ学習コンクールについて」 （講師）西津充芳（大分県立図書館企画協力課長）
	午後	（講義）「調べ学習を通した国語力の育成と向上」 （講師）甲斐徳人（大分県教育庁義務教育課指導主事）
第4回 8月3日	午前	（講義）「さまざまなメディアを活用した調べ学習」 （講師）石井保廣（別府大学教授）
	午後	（実習支援１）「メディアを活用した調べ学習」 応募した児童・生徒が参加 学年、課題等によって児童・生徒を小グループなどに編成
第5回 8月7日	午前	（実習支援２）「メディアを活用した調べ学習」
	午後	（実習支援３）「メディアを活用した調べ学習」

第6回 8月8日	午前	（実習支援４）効果的に発表するための諸準備
	午後	（実習支援５）発表と評価 「調べ学習」全過程について適切な評価、アドバイス
第7回 8月9日	午前	（セッション） 「メディアを活用していかにして児童・生徒の学習意欲を育てるか」（講師）鴇田道雄（袖ヶ浦市立根形小学校教頭）
	午後	引き続きセッション、質疑応答、実践交流 閉講式（１５：３０～）

受講者の人数　　教員４５名　　児童・生徒４７名

研修会場

別府大学（メディア教育・研究センター、附属図書館、附属博物館、
アーカイブズセンター）

大分県立図書館

大分県立先哲資料館

３．研修項目の配置の考え方

＊講師による講演と講義
本開発プログラムの趣旨に沿った総論や各論を学び、質疑により研修を深める。

＊実習支援
児童・生徒への実際の支援・指導を通して指導力の向上を目指す。

＊講師を交えたセッション　「調べ学習」について徹底学習を目指す。

＊受講者会　交流を活発にして受身の研修から交流・参加型研修へ。

４．研修項目の内容、実施形態

研修１　平成 19 年 7 月 30 日　9：30～10：30　会場 別府大学

受講者全体会議で鴇田道雄氏の「メディアを活用していかにして児童・生徒の学習意欲を育てるか」（開発プログラムのレジュメ）を読む。若干の補足をし、質疑を交わす。鴇田道雄氏の著書『学びの力を育てよう；メディア活用能力

の育成』（ポプラ社）の主な内容と袖ヶ浦市の先進的な事例を紹介。

研修２　7 月 30 日　10:40～12:10　会場 別府大学

受講者全員で成田國英氏の講演「調べ学習の意義と学校図書館の役割」を聞く。

学校図書館の利用指導、多種多様な図書館メディア整備の必要性、司書教諭の任務と役割、総合的な学習と「調べ学習」等について、詳しい資料を使って研修。

研修３　7 月 30 日　13:00～15:30　見学　別府大学附属博物館
別府大学アーカイブズセンター

附属博物館では主題を持って常設展示、特別展示をしている。「何でもよいから調べましょう」でなく、適切なテーマを持って博物館で「調べ学習」を。

アーカイブズセンターの記録資料、画像資料、録音資料等を活用して「調べ学習」を。

見学、質疑応答により研修。

研修４　7 月 31 日　9：30～12:00　　13:00～15：30　会場 別府大学

午　前　「子どもの学ぶ力を伸ばす朝の読書」栗原勝氏（全国朝の会連絡会会長）の講演。「朝の読書」がめざすもの、読書習慣と国語力育成について研修。講演後、受講者の具体的な実践例から「朝の読書」の意義や課題などを学ぶ。

午　後　「子どもたちに学ぶ喜びを伝えよう」種村エイ子氏（鹿児島国際大学短期大学部教授）の講演。氏が全国で行っている「いのちの授業」の実践例に学ぶ。講師とのやりとりを通して、いのちについて考えたり、調べたりすることの大切さを学ぶ。

研修５　8 月 2 日　9：30～12：00　　13：00～15：30　会場 大分県立図書館・同先哲資料館

午　前　「図書館を使った調べ学習コンクール」西津充芳氏（大分県立図書館企画協力課長）の講義。同コンクールの概要、応募状況、応募作品から見た「調べ学習」の現状と課題について研修。

午　後　「調べ学習を通した国語力の育成と向上」甲斐徳人氏（大分県教育庁義務教育課指導主事）の講義。国語力の育成をはじめ、学習指導の在り方、国語科や総合的な学習の時間における調べ学習の構想などについて研修。津久見市立保戸島小学校･中谷主税教諭の実

践報告「国語科と関連させた総合的な学習の時間の授業の実践」にも学んだ

研修６　８月３日　9:30～11:00　会場 別府大学

「さまざまなメディアを活用した調べ学習」石井保廣氏（別府大学教授）の講義。印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディアなど調べ学習のツールと特性及びインターネットを活用した調べ学習について研修。

研修７　８月３日　11:10～12:10　会場 別府大学

午後から始まる実習支援「メディアを活用した調べ学習」について、児童･生徒の参加状況、各自・各グループの課題、受講者の役割分担、支援･指導の方法等について説明し、共通理解を図る。特に各自の興味・関心を大切にすること、初対面の子どもへの対応に十分配慮することなどを確認。

13:00～15:20

実習支援　小中別、グループ別、個人別に担当者がついて支援･指導に当たる。指導陣（開発推進委員）は適宜アドバイスする。

８月７日　9:30～15:30　実習支援

実習支援中に受講者代表者会議、受講者全体会議、受講者小中学校別会議などを必要に応じて開き、進行状況確認・質疑・支援のポイントなどを出し合い研修。

８月８日　9:30～12:00　実習支援　まとめ方と発表の仕方について、リハーサルも。適宜、前日同様の各種会議。

13:00～14:20　鴇田道雄氏も参加して、小中学校別に順次発表。

研修８　８月８日　14：30～15：30

会場 別府大学

鴇田氏も児童･生徒のすべての発表を聞いた後、児童・生徒にそれぞれ評価･励まし・アドバイスをしながら、受講者へ指導・支援の仕方について要点を示した。

研修９　８月９日　　９：30～12：00　会場 別府大学

鴇田氏による講演「メディアを活用していかにして児童･生徒の学習意欲を育てるか」を聞き、「調べ学習」の全過程にわたる指導･支援のしかたについて受講者の実践事例を出しながらセッション。

13:00～14:30

「調べる学習」５段階のステップについて、鴇田氏の説明を聞き、各ステップの指導･支援について学んだ後、質疑･応答によるセッション。

14:40～15:30

小中から各２名の教員が「実習支援でなにを学んだか」を発表。帰校後の課題等の提出などについて確認。

別府大学西村明学長の講評で全日程を終了。

研修 10　11 月 9 日　9:30～12:10　　会場 杵築市立北部中学校

第４６回大分県学校図書館研究大会杵築大会の公開授業と分科会に参加。研究主題は「自ら課題を見つけ、主体的に追究することのできる生徒の育成～ゼミナール形式による総合的な学習の時間を通して～」。「とうもろこしからエコ」「北部中について調べよう」「北中節約村」など、８グループの発表を参観して、「総合的な学習の時間における調べ学習の指導」について研究協議。

事前学習として、５月、６月、７月の校内研修会にも参加して「総合的な学習の時間の調べ学習」について、北部中教員と別府大学教員･指導主事との合同研修を実施。

平成１８・１９年度　大分県学校図書館協議会協成

第４６回　大分県学校図書館研究大会
（杵築大会）公開授業
関係資料

研究主題
自ら課題を見つけ、主体的に追求することのできる生徒の育成
～ゼミナール形式による総合的な学習の時間を通して～

期日　平成１９年１１月９日（金）
場所（中学校会場）　杵築市立北部中学校体育館他

９月５日（水）「矢野」ゼミの授業の様子

杵築市立北部中学校
所在地　杵築市山香町大字立石２４３１－５
TEL　０９７７－（７６）－２３０５
FAX　０９７７－（７６）－２３４０

５．実施上の留意事項

＊ 講演、講義が受身にならないように、質疑の時間に受講者同士の実践を発表し、交流型の研修にした。講師に受講者が尋ねたいことをあらかじめメモにして提出しておき、具体的な指導助言をしてもらうようにした。

＊ 児童･生徒が小中別、グループ別、個別に

分かれていたので、「調べ学習」の実習支援は最初から困難が予想された。開発推進委員はそのことを十分考えて受講者へサポートするようにした。

＊ 鴇田道雄氏によるセッションの時間を本研修のメインに位置づけた。
児童･生徒は「調べ学習」の進め方について、実習に即してアドバイスしてもらった。
受講者には、今回の実習支援の仕方について、「調べ学習」全般の支援･指導について、袖ヶ浦市におけるさまざまな実践から具体的に指導助言を聞いた。レジュメで紹介している「指導体系表」について学習した。

＊ 研修が、所期の目的を達成することができているかどうか見極めるとともに、受講者が主体的に学ぶことができるようするため受講者会を適宜開いた。

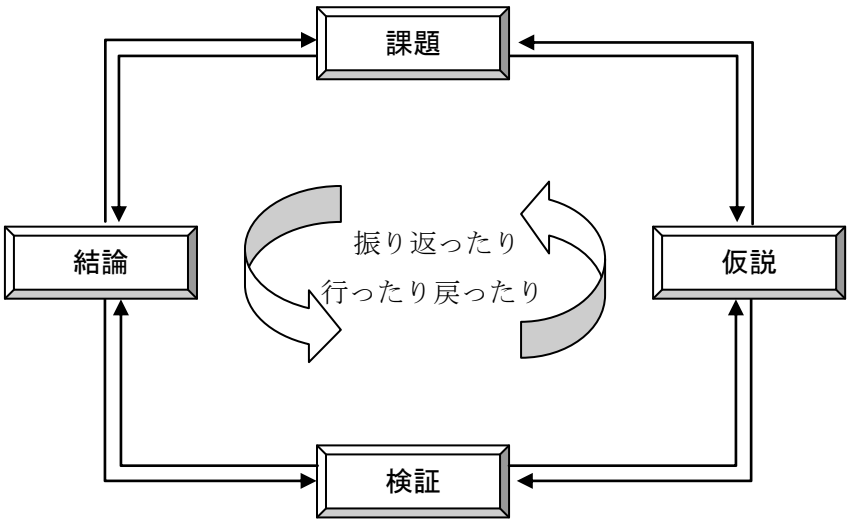
6　研修の評価方法

●アンケート調査
●レポート提出
●受講者会議で学んだこと、学びたかったこと、要望・感想などを発表し交流。
●開発プログラム推進委員会による総括会議

7．研修の成果と課題

（1）国語力及びメディア活用能力の育成を図る指導
①課題　②仮説　③検証　④結論

「 調べ学習の過程」



①課題　　本当にその課題を追究したいのか

- なぜ、どうして、おや？　不思議だなあ、を大切に
- 気づきや疑問が出発点　　気づき・疑問･好奇心　⇒　課題　⇒　追究
- 日常的な教師の働きかけが、課題決めに大きく影響する。
- 「〇〇について」から「どうして〇〇なの？」へ。
- 課題は、調べていくうちに新しい課題を生む。それを調べていると、また新しい課題に。行ったり戻ったりを大切に。
- グループでブレーンストーミングなどを取り入れて､いろいろな角度から課題についての考えを深めていく。

②仮説　　振り返りながら「調べ学習」をしているか。

- 何から、どうやって始めるか、いつ、どこで、何を使って調べるか。
- 調査、見学、観察、実験、アンケート調査など、いろいろな調べ方を考える。
- 限られた時間でどこまで調べることができるか見通しを立てる。
- 「これでよいのかなあ」「ほかの方法はないの？」と考えながら追究する。
- 複数の資料･情報を使って、比べながら考える。
- グループで調べる時は役割分担をし、途中で振り返ったり、意見を交わしたりしながら学習を進める。

③検証　　資料・情報をどのようにして集め、整理するか。

- 必要な資料･情報を選ぶ。それは本当に求めている情報なのか、理解、納得のいく情報なのか、信頼できるものなのか。
- 多種多様な資料･情報、情報手段、情報ソフトを活用する。
  印刷メディア： 図書、新聞・雑誌、ファイル資料、パンフレットなど
  音声･映像メディア： テープ、CD、MD、ビデオテープ、写真、スライドなど
  電子メディア： インターネット、CD-ROM、DVD など
  メディアを介さない方法： 調査、見学、観察、実験、インタビューなど
  問い合わせ： 電話、手紙、FAX、電子メールなど
- フィールドワーク、ワークショップなどの活動を通して確かめる。
- 集めた情報は求めていたものかどうかを確認して整理する。
  記録カード、ファイル資料、資料リストなどを作る。
  必要に応じて整理･分類・見出し付け、掲載ページ記載などをする。
  図や表にまとめて分かりやすく整理する。
- 記録する。
  抜き書き、要約、箇条書きなどを考えて記録する。
  コンピュータへ記録する。

カメラ、VTR、DVD、テープレコーダーなどに記録する。

④結論　　調べたことをどうまとめ、発表するか。

- 調べたことを比較する。
- 調べたことを分析する。
- 調べたことを分かりやすいように整理する。（以上、まとめ方）
- まとめたものについて、「調べて分かったこと」と「自分の考え」を分けて考察する。
- 自分の考えを相手によく分かるようにさまざまなかたちにまとめ、発表する。
- 文章（レポート）、写真、絵、絵地図・地図、分布図、図、図表、表、年表、ポスター、ジオラマ、模型、各種掲示物など多彩な発表方法を考える。
- だれにどう伝えるか、どんな機器を使って発表するか、どんなかたちで話し合い、「調べ学習」の成果をみんなのものにしていくかなどについて考える。

８．研修実施上の課題と改善策

課　題

①研修の時期、受講者の募集、継続的な支援について

＊夏休みの７日間、本開発プログラムの趣旨に沿って研修を希望する小中学校教員及び夏休みの３日間に課題を持って調べ学習をしようと考えている小中学生に参加を呼びかけた。その結果、教員４５名、児童・生徒４７名の応募があった。
夏休みには予想していた以上に、学校行事や地域活動などが多く計画されていること、「国語力とメディア活用能力の育成」という趣旨が学校現場に十分理解されなかったこと、司書教諭の職務の実態や意識の低さのためか、司書教諭の参加が少なかったことなど日程、応募方法、研修内容などに課題を残した。

＊３日間にわたる児童・生徒の実習支援は、グループ対象の支援、個人対象の支援に分けて行った。当初から予想していたことだが、時間が短かったこともあって中途半端な支援に終わったといわざるを得ない。
グループ対象の場合は中間発表、最終発表まで直接学校に出向いて学習状況をDVD に収めたが、個人の支援では一部の児童については３学期まで支援を続けたものの、個個人の課題意識を受講者が十分把握・理解したうえで、長期にわたる支援ができなかった。

②研修の輪を広げ、深めるために

「調べ学習」支援の実際や講師の助言等を収録した

●DVD「深め　発見する喜び　－教員の指導力を拓く調べ学習－」

●研修のための小冊子『「調べ学習」支援・指導のてびきー児童・生徒の国語力及びメディア活用能力を育てるためにー』を学校等に配布する。要請があれば、開発プログラム推進委員が学校に出向いて研修を支援する。

③ 中間発表後の受講者の感想や要望から

＊調べ学習は課題について自分の力で調べ、自分の考えをまとめ、深く学んでいく学習なのに、資料をあさるだけ、調べるだけ、調べっぱなし、資料の寄せ集め、丸写しに終わり、苦労は多かったのに深まらず、達成感、満足感を味わうことができなかったということはなかったか。分かったつもりになっているということはなかったか。短時間の、しかも初めて出会った児童・生徒に調べ学習を支援するという日程では、支援のための諸準備、計画、工夫の時間がなく、十分な支援ができなかった。（小学校教員）

＊生徒はそれぞれグループで課題を調べ、整理の段階まで進んだグループもあったが、本当に調べたくて熱心に取り組んでいるところと、しかたなく調べていたり、解決を急ぐあまり資料を安易に直線的に求めていたり、多様なメディアから情報を得ようとせず、インターネットの情報に飛びついていたりしているのを見て、「自ら」「主体的に」調べ、学習意欲を喚起するためにどのような支援をすべきか迷ってしまった。（中学校教員）

＊児童・生徒の発表は一生懸命ではあったが、問いを立て、見通しを持って多種類のメディアを使って調べ、収集した情報を整理し、まとめ、最後に発表するという一連の取り組みをこの日程でやることは困難だった。まとめから発表の段階における児童・生徒の国語力やメディア活用能力育成の肝心な指導を落としていたのではないか。発表（発信）は誰に向かってするのか、聞き手（受信）にはどんな指導をするのか、質問や討論はどうするのか、みんなに分かるようにするために何を使うかなど指導・支援すべき問題がたくさんあったのに「やっと発表するだけ」に終わってしまったことを残念に思った。（小学校教員）

＊せっかく意欲と関心のある教員が集まったのに、教員間の議論がほとんどもてなかった。鴇田先生の話とレジュメの資料は調べ学習を進めていく時に役立てたい。「実習支援」の時間を設定した意図は分かるが、私（教員）自身のメディア活用能力を高めたいという要望を持って参加した者にとっては、いささか不満足だった。（小学校教員）

＊中学校司書教諭をしているが、それは名ばかりで学校図書館を「学習情報センター」にすることも、自身がメディア（パソコン）を使いこなすことも、総合的な学習の時間について説明することも「できない症候群」に苦しんでいる。救いを求めてやって来たが特効薬はないことがわかった。（中学校教員）

④別府大学メディア教育・研究センター、附属図書館、附属博物館、アーカイブズセンターの協力で開発プログラムを推進したが、今後さらに関係者との意思疎通を図るとともに、諸施設を教員や近隣の小中学生に開放して活用してもらえるようにしていきたい。

改善策

① 時期、募集等
夏休み中に限定せず、開発プログラム推進委員会で協議して１、２学期を中心に１週間程度研修する。
国語力及び情報活用能力向上に取り組んでいる小中学校、先進的な研究・実践をしている小中学校教員と連携してモデルカリキュラム作成に取り組む。

② 研修の推進
＊問題解決型学習、メディア活用能力向上に取り組んでいる学校、研究・実践している教員、学習情報センターとして先進的な学校図書館と連携して研修を進める。
＊「国語力」については文化審議会答申を開発推進委員会で検討して、概念や指導法について一定の考え方を確立し、広げていく。
＊「メディア活用能力」については、開発推進委員会で文部科学省の「新情報教育に関する手引」第１章～第４章を十分検討し、概念や指導理念を確立し、広げていく。
＊平成２０年２月に発表された学習指導要領（案）を開発推進委員会で分析検討し、学力観についての学習、問題解決型学習の理念・方法の修得、「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」大分県版の作成、学習情報センターとしての学校図書館の利活用等、課題を明らかにしながら研修を進める。

③ 計画された研修をそこで短期間で終わらせるのでなく、その後どのように実践をし、どのような成果や課題があったか、開発推進委員会も加わって、実践報告会を開き各自の実践・研究を還流、指導力の向上を図る。

④ 研修成果を DVD、冊子にまとめ、さらにホームページで発表し、研修に活用する。

⑤ 「第５回子どもの読書活動推進研修会」（主催 別府大学、後援 大分県教育委員会、大分県学校図書館協議会）で、国語力、読書力、情報活用能力、読書環境の整備、学習情報センターとしての学校図書館、司書教諭や学校司書の任務等、本開発プログラムと関連づけた研修を行う。

Ⅲ　大学・教育委員会連携による研修についての考察

①大分県教育委員会が平成１６年２月に策定した「大分県こども読書活動推進計画」の具現化に向けて、連携して次のことを中心に取り組んできた。

＊司書、図書館ボランティア活動者等のスキルアップ研修
＊司書教諭、学校司書の研修
＊大分県立図書館「図書館を使った調べ学習コンクール」への支援
＊子どもの読書活動推進研修会の実施

②本開発プログラムの一つの柱「国語力の育成」については、大分県教育委員会指導主事から指導の実際に即して専門的に多くのことを学んだ。

③新しい学習指導要領（案）の内容の中から「国語力」「情報活用能力」について、指導主事と合同研修を行う。

Ⅳ　その他

☆キーワード

（　問題解決型学習
調べ学習
国語力
メディア活用能力
教員の指導力向上
実習支援
DVD
てびき　）

☆人数規模

C. 21～50 名

☆研修日数

C. 4～１０日

【問い合わせ】
別 府 大 学
文学部司書課程
〒874-8501
別府市大字北石垣82
TEL　0977-66-9635

詳細を以下に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。
http://repo.beppu-u.ac.jp/modules/xoonips/listitem.php?index_id=1995